

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101408		
法人名	エフピィ・ウェルフェアワーク株式会社		
事業所名	イエローガーデン有松（1F）		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番10号		
自己評価作成日	令和8年2月10日	評価結果市町村受理日	令和8年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 tsunagu
所在地	石川県野々市市高橋町9-41
訪問調査日	令和8年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護度・認知症の状態に関わらず受け入れをしています。 訪問看護などを利用し、終末期ケアを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くにある神社への参拝や周辺散歩の際には、近所の方と挨拶などの交流機会となっている。また、積雪がみられる時期には、ホーム職員と地域の方が協力して道路や駐車場の雪かきに励み、自然と交流の機会となっている。以前行っていた、地域の回覧版にホーム広報誌を載せてもらっていた取り組みも今後再開して行く予定である。 管理者は日頃から現場に入っており、1週間に1度は必ず全フロアを回っている。そうすることで、人間関係や利用者との関係性や課題を把握することにつながり、問題が大きくなる前に対応することが出来ている。また、管理者が必要と感じれば、法人の統括者にも相談できる体制が構築されており、働きやすい環境整備に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に経営者・管理者から理念について説明を受ける。具体的なケアについて、定期的にフロア会議等で話し合い、意見の統一を図るなど、実践に向けての取り組みを行っている。	「人権の尊重」「家庭的な雰囲気です立した生活」「自然とのふれあい」「地域との交流」という4つの内容を理念として掲げている。理念周知には、ミーティングの機会を活用し、ケアの方向性に迷う際は、まず理念に立ち返ることを徹底している。	外国人労働者へ理念を浸透させることを課題として述べられていたということもあり、次回までに外国人労働者へも理念理解の周知がなされていることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じて、町会長や民生委員との関わりをもったり、近隣のスーパーや飲食店などを利用し交流を図っている。	近くにある神社への参拝や周辺散歩の際には、近所の方と挨拶などの交流機会となっている。また、積雪がみられる時期には、ホーム職員と地域の方が協力して道路や駐車場の雪かきに励み、自然と交流の機会となっている。以前行っていた、地域の回覧版にホーム広報誌を載せてもらっていた取り組みも今後再開して行く予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を町内の回覧板に載せてもらい、その中で認知症ミニ講座を掲載したり、地域の認知症相談窓口として事業所の電話番号を記載し、問い合わせに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議で地域の方やご家族の意見をお聞きし、また福祉用具業者や薬局の方に参加して頂き、意見を聞かせてもらい、サービスの質の向上を図っている。	構成員は市職員、地域包括職員、介護相談員、町会長、民生委員、保育所、薬局等である。内容としては、ホームの活動や利用者状況、事故報告等が主であり、質疑や助言をいただいているが、多くは職員へのねぎらいの言葉をいただくことがほとんどである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が主催している家族会等や、地域包括センター（お年寄り地域福祉支援センター）が主催する行事・研修会に事業所として積極的に参加している。	運営推進会議や連絡会を中心に行政との交流があるが、それ以外にも制度や運営上分からないことがあれば、都度連携を図っている。また、市社協の介護相談員を受け入れており、1～2ヶ月の頻度で来訪している。事故発生時も報告を行っているが、今期の事故は見られていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わずに一人一人に合ったケアを行っている。職員間で、研修を通じて身体拘束廃止についての理解を深めている。	身体的拘束等の適正化のための指針が整備され、身体拘束廃止委員会を2ヶ月毎に開催している。委員会ではマニュアルや指針の見直し、ケアの見直し、研修などを行い、身体拘束をしないケアに努めている。職員事務所には、スピーチロック防止の取り組みとして、言い換え言葉をまとめたものが掲示してある。建物の施錠は、夜勤帯に防犯上の観点で実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修に積極的に参加し、研修を受けた者は内部研修でフィードバックを行っている。また内容を掲示し、ご家族様にも取り組みがわかるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は積極的に研修に参加し、理解するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族に十分な説明をおこない、不安や要望等を聞き、契約内容や重要事項等を十分に理解し納得して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・運営推進会議・意見箱などご家族と何でも話し合える関係を作り、要望があればミーティングで話し合うよう努めている。	面会時や運営推進会議、ケアプランの要望確認の際に家族から意見を聞く事が多く、家族相談から身内の祭儀参加の実現に至った事例がある。また、利用者からは、日々の関わりの中で意見を聞く事が主であり、家に帰りたい思いを叶えるべく、家族の協力を得たうえで実現に至った事例がいくつもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、ミーティング、定期的な個人面談等で、意見や悩みを出し合えるよう配慮を行っている。	管理者は日頃から現場に入っており、1週間に1度は必ず全フロアを回っている。そうすることで、人間関係や利用者との関係性や課題を把握することにつながり、問題が大きくなる前に対応することが出来ている。また、管理者が必要と感じれば、法人の統括者にも相談できる体制が構築されており、働きやすい環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働もなく、有給休暇が取得しやすいよう配慮を行うなど、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し、研修報告を行い学んだ事項を他の職員と共有している。 新規採用時には新人研修を管理者、看護師を中心に実施し、実技指導は各フロアのリーダーを中心とし学べるよう配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加し、他事業所の意見を聞く機会とし、サービス向上に活かしている。また、研修を通じて他事業所職員と積極的に意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応時にご本人、ご家族様から生活歴などについてお聞きし施設での生活がご自宅での生活に近づくことができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応時にご家族からの要望や不安なことなどを聞き、ご本人とともに信頼関係を築き安心して過ごせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスの場においてご本人様ご家族様の意見をお聞きし、必要な支援について共に共有できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、ご本人様の出来ることが続いているよう、かつ難しくなっていることについては共に行えるようカンファレンスを通じて意見を出し合い協力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時または「コスモス便り」「報告書」の中で近況をご報告し、意見や要望などを聞く機会を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話の中で、ご本人の思いを傾聴し、これまでに大切にしてきた人や物などを共有し、これからも関わりを持てるように支援を行っている。	面会に関しては、感染防止のため、利用者ひとりにつき、月に2回15分以内、面会者は2人まで、玄関でというルールで行っている。家族の協力を得られる形で、外出や外食、外泊はもちろん、馴染みの美容院やお墓参り、ドライブなどへ出向くこともできる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを把握し、ご自宅のようにくつろげるよう環境を整えている。また趣味や好きだったことが継続できるようにご家族様の協力を得、支援を行っている。また円滑にコミュニケーションが図れるように配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からのご希望があれば、その都度対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常におけるご本人の会話や表情、行動を把握し、またご家族からのご要望を参考し、ご本人様ご家族様の希望に添える様努めている。	家族から昔の話(仕事や性格、好きなことなど)を聞かせてもらうことで、利用者一人ひとりの背景(歴史)がわかり、そうした観点を持つことで、日々の関わり方も変わり、本人からの意向が引き出しやすくなっている。また、外部研修に参加し、思いや意向の把握につながる手技等を学んできた際は、フィードバック研修を行い、職員の質向上につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から生活歴などを、日常的にお聞きし、職員間で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居以前の過ごし方などを参考に、ご本人様が安心して過ごせるように会話の中で把握したり、カンファレンスを通じ、職員間で把握、共有できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き、計画作成者を中心とし、より良いケアプランが作成できるよう努めている。	アセスメントはケアマネジャーが行い、家族・本人の意向を聞き、原案作成後、サービス担当者会議で職員周知を行い、サービスを提供している。モニタリングは3ヶ月ごとに短期目標について行い、その都度計画も更新している。記録は介護記録と処置表(バイタルや食事量、各種サービスの記録)がある。	ケアプラン内容について、画一的になりやすい為、利用者一人ひとりの特性が際立つプラン作成となる事を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態を誰が見てもわかるように記録するよう指示が出ているが、まだ不十分なところがある。勤務前には申し送りの徹底を図っているがまだ不十分である。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嗜好品など、ご本人様が自ら購入できるように支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや飲食店、公園などを利用している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によりかかりつけ医へ受診にいつでもらったり、円滑に主治医の往診を受けられるよう配慮を行っている。また体調不良時や内服薬の変更などについて看護師より密に連絡をさせて頂いている。	利用者のかかりつけ医は一人を除いて皆往診してくれるので職員と医師は直接に情報交換できている。往診医は、24時間365日連絡がつく体制であるため、大きな安心感となっている。内科以外は主治医が紹介状を作成し、基本家族対応で行ってもらい、通院後に家族から情報を聞き取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時には看護師に連絡し、速やかに看護や往診が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを速やかに提出し、退院時にはソーシャルワーカーや担当看護師と連携を図ったり、直接病院に出向き、スムーズな支援が行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様共に、満足のできるケアを提供できるように主治医、看護師を含め話し合いの場を持っている。	看取りの対応を行っているが、グループホームであるため、医療行為の限界があり、その点を家族としっかり知り合わせ、了承のうえで最期までの支援を行っている。看取り支援を適切に行えるよう、年2回看取りについての学習機会を設けている。また、ホームではない選択をされた場合には、移行がスムーズとなるよう情報提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等に参加し学んでいる。またマニュアルを周知している。また看護師の指導を受け、実践に備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアルを作成し早急に連絡対応出来る様準備している。	介護事故防止・対応マニュアルや緊急時マニュアルが整備されていて、緊急時の対応手順や救急情報提供シート等も用意されている。また、ヒヤリハット報告により事故の予防に努めている。年に数回は救急搬送の事例があるため、それに備えた体制整備を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関、主治医の定期的な往診、近隣の専門医などの協力を得、支援体制を確保している。	協力医療機関の医師だけでなく、協力医療機関以外の医師も、月に二回往診に来てくれる。夜間もオンコール体制もとってくれてバックアップしてくれている。そのため、利用者や職員の安心感は大きい。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間緊急時には、各ユニット1名ずつ配属されているため応援の依頼が可能である。近隣にも職員がいるので緊急時の対応は可能である。	夜間帯もユニット毎に職員が配置されている。夜間の緊急時にはかかりつけ医や、訪問看護ステーションに連絡して指示を受けて対応している。救急搬送の場合には、原則家族へ連絡し対応してもらうが、連絡が取れないなど対応できない場合には、事業所内の他の職員の応援で対応している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の緊急連絡体制やマニュアルを作成し、周知するよう努め、年に2回、防災訓練を行い身に着ける様努めている。	非常災害時対策計画(マニュアル)の中に、各種災害の対応について定めている。また、自然災害BCPも策定済みで、研修や訓練を通じて職員への周知を図っている。計画の中では金沢市の作成したハザードマップを活用して事業所の特性(場所)を勘案した対策が作成されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	昨今の災害に合わせたマニュアルの見直し、整備が必要である。	消防設備点検、消防訓練やBCPの訓練、研修等を実施して安全確保の体制づくりを行っている。災害発生時には利用者の安全確認を行うことがマニュアルには示されている。定期的なマニュアルの見直しは行われていない。	職員の異動等に合わせて、マニュアル等 の見直しを行うことが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちに寄り添い、個別に対応している。排泄や入浴のケアについては、プライバシーに配慮し、環境を整えかつ言葉かけに配慮している。	ケアマニュアルには入浴の場面では、更衣中にはプライバシーへ配慮すること、排泄の場面では利用者の羞恥心やプライドを傷つけないことに配慮することが示されている。利用者の居室でケアする時にはドアを開けたままにしないことや、居室に入る時には、一言声をかけて入室することを管理者は徹底させている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定する場面を作るよう努めている。外出の希望時などは、すぐに行えることについては速やかに行い、すぐに行えないことについては、計画を立て実施している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調の変化に合わせ、快適に過ごせるように配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で衣類の選択ができるよう提示している。お化粧や整髪ができるよう物品などの準備を行っている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事においては彩りや食べやすさなどを大切にし、共に準備できるよう声かけを行っている。時々、工夫を凝らし、食事会を開いたり、外出に出かけたりしている。 個々の強みを発揮できるよう、配慮を行っている。	食材は専門の業者からメニューとともに毎日配達されてくる。調理は各ユニットで行っているので、利用者の特性に配慮して、味付けや食形態(刻みやペースト)を整えて提供している。 季節の行事(節分、正月、敬老会等)や誕生会の時にはケータリングサービスを利用して少し豪華な食事を利用者・職員で楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がメニューを作成している。摂取量、水分量をチェックし、時にご家族様、主治医への報告を行っている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの見守り・支援を行っている。 義歯は職員にて管理・洗浄を行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスなどにおいて、排泄ケア内容を決定し取り組んでいる。、排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握できるようにしている。	ケアマニュアルには「排泄の自立は生きる意欲や自信の回復、さらに食や睡眠などの身体機能を高めることにもつながります」と記されている。そのため24時間の排泄の記録を活用してその状態を確認して、少しでも長くトイレでの排泄が継続できるように心掛けて支援している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表・ケース記録からカンファレンスなどにて検討している。水分摂取の促し、簡単な体操の提案・実施、個別でヨーグルト、果物、牛乳等を購入して頂き、薬に頼らない排泄に努めている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望に合わせて、入浴できるよう支援を行っている。入浴ができない方については、清拭や陰部洗浄などで対応を行っている。	入浴は原則週に2回となっている。汗をかいたり、汚染した場合にはそれ以外にも入浴して、清潔を保持している。毎朝バイタルを測る時に入浴の可否を判断して、入浴できなかった時には他の日に変更している。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず話題を変え、巧みな話術で入浴を拒否されないようにして誘導してお風呂に入ってもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠に関しての情報を把握し、衣服の調整、水分の提供などの対応を行っている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の訪問の際には、指導を受け、また電話で相談するなど努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居以前の生活歴などを把握し、ご本人が役割を継続したり、生活にハリが持てるようご家族様の協力を得ながら支援を行っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は天候や体調に配慮し、散歩や買い物の支援を行っている。共に計画を立て、外出の機会が持てるようにしている。季節感を感じ取ることができるよう、支援を行っている。	個別に家族と一緒に出掛ける人はいるが、コロナ以降外出の機会は減り、以前のように出かけることは難しい状態である。ただ、少しでも気候の良い時には近くの公園に出かけたり、近所を散歩したりと戸外に出かけるように努めている。管理者からは、今後もっと外出の機会を増やしていきたいという話を聞かせてもらった。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望に合わせ外出し、日用品、嗜好品などの買い物をしている。支払いの際にはご自身でできるよう配慮している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望により、電話をかけたり、手紙を出せるよう努めている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に合わせ室温調整し、リビングには季節感を感じられるものを装飾している。	利用者が過ごすリビングは、職員により毎日清掃・消毒が行われて快適に過ごせる様に配慮されている。室温は大体25℃くらいを目安に、今の時期なら寒くないように管理している。リビング以外のスペースも、職員が清掃を行い清潔で居心地の良い空間となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやひじ掛けイスの設置、声かけにより楽しく過ごして頂けるよう配慮を行っている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用していたものや写真など馴染みのあるものを置き、安心して過ごしていただけるように努めている。	居室にはベッド、TV、タンス等が設置されている。危険なものやペットの持込はお断りしているが、入居前に部屋を見てもらい、写真や小物入れ、小さなタンス等、馴染みのある品を持ち込んでもらっている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に案内をつくり、わかりやすく安全に過ごせるように配慮している。		